

# 保育おながし

神奈川県保育会々報 第5号 1968.3.25 発行

## 関東ブロック保育事業連絡協議会報告

### 園児の減少化などを討議

2月14～15日関ブロ連絡協議会が開催され  
 本県より安部龍蔵(保育会)柳瀬幼子(保母  
 会)木下雲嶺(児童課)近藤弘(県社協)の  
 諸氏が参加され、その会議の主な概要は次の  
 通りであった。

全体協議、関東ブロック大会の開催要綱に  
 ついて協議しその内容は別記の通りであった。

#### 職種別会議

#### 保育部会

#### 1, 施設定員超過、減少問題について

定員超過のみならず減少の一途をたどる施  
 設もかなり多い状況であると各県の状況につ  
 いての話し合いがなされたが具体的な結論は  
 出ず継続研究をすることとなった。

### も く じ

関東ブロック保育事業連絡協議会報告 .....	近 藤 弘 2
新年度の保育予算あれこれ .....	安 部 龍 蔵 3
「無認可」への助成をめぐって =東京都の保育予算について=	田 頭 晴 弥 4
退職金制度 改善の経過報告 .....	泉 順 5
県社協だより～定期昇給制度の研究について .....	丸 山 元 晴 7
「体育」の実態調査をテーマに～神奈川県保育研究協議会参加報告	県 社 協 7
神奈川県保育会1年の歩み .....	長谷川 愛 子 8
昭和42年度県保母会のあゆみ .....	伊 従 ミサ子 9
新設遠藤保育園について .....	安 部 龍 蔵 9
S43年度県保育会委員一らん表 .....	尾 島 正 子 11
編集雑記帖 .....	七 尾 善之助 11
	泉 順 13

## 2 保育所と幼稚園の適正配置について

県において調整をはかってもらうべきであるという結論であった。

3. 認可保育所は現在の社会人の要求に応じきれない状況であるが、これをどのように解決して行くべきか。

長時間保育、零才児保育等の要求に応じきれない状況をどのように解決して行くかということであるが、これも職員の処遇、労働条件、子どもの福祉面等問題が多く継続研究をすることとなった。

### 保母部会

#### 1. 給食の問題

給食関係業務の合理化、簡素化について各県の状況について話し合いがおこなわれ、さらに各県の資料をしょう集し研究をつづけることにした。

2. 3才未満児の実践記録の取り方について  
これも各県の資料をもち寄り様式等について今後研究を続けることとなった。

#### 3. 園長会、保母会の関係について

園長会、保母会の関係については、保母会が園長会と別箇の団体である場合と、園長会の下部機構の場合があるが、どのような形がよいのか、保母会の活動とその機構上の問題が話し合われたが、園長会との関係は各県それぞれの事情等があるということで特に結論は出さなかった。

#### 4. その他

関東ブロック大会に給食問題のテーマを入れることを要望した。

### 主管課部会

#### 1. 施設の定員超過減少問題について

定員超過については理論的には問題にならない(最低基準遵守という立場から)。

定員減少の場合は、定員を割っても保育所が基本的に必要な場合は、対策を講じなければならぬということを確認したが、その具体策についての検討までいかなかった。

#### 2. 無認可保育所の問題について

県で打ち出された小規模保育所対策が無認

可保育所対策につながると思われる。また60人以上でなければ認可しないという方針については問題があると思われる、また各県における実態把握がまず必要であるということであった。

#### 3. 幼稚園と保育所の適正配置について

幼、保は理論的には目的、機能が分離しているのであるが、住民意識から見れば同一視されている。そこで(1)保育所についての啓蒙が必要である。(2)行政機関においても連絡を密にする必要があるという結論であった。

#### 4. 小規模保育所対策について

都市化が進む一方、また社会情勢からも保育所設置の要望は強いものがあるが、土地が得られないという等の諸条件からも要望に応えての設置は非常に困難な状況にあるので、小規模保育所を認め推進しなければならないということについて話し合った。

#### 5. 無資格保母解消策について

有資格保母が公立施設に移動する一方では民間にかなりの無資格保母がいるが、これへの解消策としては、保母希望者が増えているので一般市民の意識の向上を図り養成機関への入学者の増加、保母試験受験者の増加を図るべきである。

### 社会部会

#### 1. 社協種別協議会活動をいかに位置づけるか

現在の社協の業種別部会の活動を、社協外に例えば保育園連盟、保育会というように別箇の団体を設け、その団体の活動にまかせようという動きがあるが、はたしてそのような考え方でよいかどうか、社協の基本的性格にまでさかのぼって話し合った。その結論は業種別活動も当然社協活動である、また地域福祉活動等その他の活動をすゝめるうえでも、業種別活動はその一つの基盤になるということを確認した。

#### 2. その他

関プロ連絡協議会のあり方、関プロ大会の事務処理面について話し合った。

(文責・県社協近藤 弘)

第9回関東ブロック保育事業研究大会の予告と

昭和43年度全国共通研究テーマについて

A, 第9回関ブロ長野大会

- (1) 開催日時 昭和43年6月29日(土)～7月1日(月)
- (2) 開催地 長野県長野市  
総会場・長野市民会館  
分会场・長野市内
- (3) 参加者 保育園長 保母 保護者会長  
保育行政関係者其他 本県関係100名 横浜50名
- (4) 参加費と宿泊費 参加費 1人500円  
宿泊は3食付1泊1,700円予定  
(5月20日までに参加費500円と宿泊予納金500円を添え県社協に申込むこと)
- (5) 研究 研究テーマは全国共通研究テーマを大要7分科会に分かれ、外に第1日の総会において保育所の回顧と展望を主題にパネル討議をする。

B, 昭和43年度全国共通研究テーマ

主題 保育所の歴史からみた今日の保育問題  
保育所の回顧と展望

今年は国家的には明治100年、保育所関係では児童福祉法施行20年にあたる。

さまざまな社会変動にともなう保育制度の改訂の中で、どのような保育活動が行なわれたか、どのような役割を果たしてきたか。

今までの保育所の歴史を学ぶとともに、これからの保育活動のあり方を明らかにしようというものである。

テーマ1, 保育所の財源確保活動について

A 国に対する予算対策運動のあり方について

(第12回全国保育研究協議会では専門委員会とし、各都道府県保育協議会予対委員の代表者でもって定昇問題もふ

くめ討議する予定。)

B 地方自治体に対する財源確保活動について

(第12回全国保育研究協議会では公立分科会、私立分科会にわかれて討議する予定。)

- (1) 各都道府県段階のもち出しはどうなっているか。財源確保のためどのような運動を行ってきたか。また今後どのようにすすめるべきか。(実態調査をもとに討議する)
- (2) 市町村段階のもち出しは、どうなっているか。財源確保のため、どのような運動を行ってきたか。また今後どのようにすすめるべきか。(実態調査をもとに討議する)
- (3) 施設独自の財源をどうしているか。  
テーマ2 保育所の環境整備について

- (1) 保育所の新築、増改築にあたって今日の設計、建築材料施工はどのような配慮がのぞましいか。

イ 木造、鉄骨、鉄筋などの成功例、失敗例など。

ロ 設計にあたって、事業部門(保育室、遊戯室、調理室、便所手洗いなど)と管理部門(事務室、保母室、休養室、面接室、その他)との関連の中で特に考慮すべき点。

ハ 最低基準の改訂に伴う2階、3階建ての保育所のもっとも機能的な設計と保育体制。(特に階毎の分離と統合のしかた)

- (2) 保育効果をあげ、保育従事者の労働を軽減するために保育室、調理室、便所、その他に配慮すべきことや保育備品、遊具などの取扱い。保管、補修などの工夫。

(例えば、保育室での食卓、午睡の場の使いわけとか、午睡用布団、運動用具などの機能的な整理など)

- (3) 保育効果があがり、管理のしやすい

戸外保育の場として屋外運動場をどのように整理し、活用したらよいか。(例えば外部とのしきたり、運動用具プール、動植物の飼育栽培など)

テーマ3. 保育所における今日の乳幼児の具体的なすがたとそれをふまえた。

保育実践—保育指針、保育要領の実証的研究—

(第12回全国保育研究協議会では(1)(2)と(3)(4)の2つの分科会に分れて討議する予定。)

- (1) 3才未満児の受け入れ当初の子どものすがたとで注視すべき点とそれに即応する保育のしかたについて。
- (2) 長時間保育の子どものすがたと一日の生活の流れと結びついた長時間保育体制について。
- (3) 今日の子どもの集団生活へのなじみかた、のびかたのすがたと、それをふまえた集団を発展させるための具体的指導のしかたについて。
- (4) 家庭、近隣、地域などの変動(例えば核家族、少子家族、住宅難、団地、交通禍、遊び場不足、人口の過密、過疎、都市化など)が子どもたちにどのような影響を与えているか。それをふまえた実践例。

テーマ4. 自由テーマ(前年度研究協議会継続研究事項や、地方からの提出議題など)

- (1) 保育料の保護者負担のあり方について(継続研究事項)
- (2) その他

(安部委員・記)



～ 新年度の保育予算あれこれ ～

～ 田 頭 晴 彌 ～

昭和43年度の予算運動は例年になく深刻でしたが、目下国会で審議中の政府原案は保育所分、二百十六億一千六百八十六万六千円で、42年度より四十三億八百三十三万三千円の増(24,85%増)となり、児童家庭局予算額四百九十一億九千四百五十七万一千円の42%に当たります。

何がどれだけ改善されたか

1. 措置費(保育単価)関係

先ず人件費関係

第一、3才児担当保母の定数30対1が、25対1に改められます。二億五千万円。

第二、地域差是正、残存格差の解消で昔までは正出来ました。三億九千万円。乙地域は4月から $\frac{3}{8}$ 分給与が改善されます。

第三、社会保険料が給与の6、15%から6、4%と、0、25%のアップです。

第四、通勤手当、年額3千円から、3,285円と9、5%の改善をみました。

次ぎは事務費関係

第一、庁費、8千円が1万円と25%の増。

第二、補修費、1 $m^2$  212円を227円に15円の増(坪当たり7百円が750円に)

そのつぎは事業費関係

飲食物費(給食費)

1. 3才以上児 31円09銭が34円に。

2. 3才未満児、71円26銭が78円に。

1. が9、35% 2. が9、45.8%の改善。

日常諸費(保育費)

1. 3才以上児、10円14銭が11円に。

2. 3才未満児、11円51銭が13円に。

1. が8、48% 2. が12、95%の改善。

二、その他

1. 小規模保育所対策(新規)100ヶ所。

30人以上の規模のもので3才未満児が2割乃至3割位在籍するもの。八千万円

2. へき地保育所、四億二千万円。
3. 季節保育所（存続）二千万円。
4. 産休代替 保母費補助金 6,690 万円。
  - イ、人員 2,637 人を3,452 人に。
  - ロ、単価 1日950 円を1,020 円に
5. 保母養成所費補助金。7,711 万円。
 

給与、講師手当の改善、修繕費の改善。
6. 保母修学資金貸与額補助金、2,880 万円。人員 1,500 人を1,600 人に。

尚、外に社会福祉施設整備費補助金として三六億円があり、これには保育所分も含んでいます。民間施設は社会福祉法人であること。以上がその内容です。

次年度への課題

- 一、3才児を15対1にする要望（厚生省案は20対1）を年次拡大すること。
- 二、地域差は正は給与体系確立への重要条件でもあり、早急に解消すべき課題です。
- 三、保健衛生費は保育所だけ落ちこぼされて4年間も努力しています。特段の工夫対策を練らねばならない重要課題です。
- 四、定期昇給制度確立問題は民間社会福祉施設挙げての大課題です。保育関係では先ず単価払いを定員定額払い制にすることが先決条件ですから、地方でもその対策を具体的に推進することが肝要です。

気にかゝる保護者の負担増

年々の予算獲得運動は施設が最低基準保持に必要な経費を要求するものですが一方ではその必要経費は、“受益者負担”を建前としているため、理論上当然保護者の負担増となるし、現実にそうなっています。

しかし、負担能力限度をどう定めるか、その基準の定め方が問題でしょう。現行徴収基準がもう数年来改正を見ていないし、社会の物価額なり賃金価値なりの変動も大きいのでから早急に改正すべきだと思います。

これまた緊急課題です。

4月から改訂される保育単価は、去る8月改訂より更に百円位の値上りとなり、新らしく、3才児家庭はその加算額負担も増えまし

よう。60人定員施設の甲地域で4,380円。

乙地域でも4,110円前後です。3才未満児は七千円を超える徴収限度額となりましようし、対象家庭の財政硬直化が心痛されます。

（1968、2、28夜）

~~~~~

## 「無認可」への助成をめぐつて

＝東京都の保育予算について＝

昭和43年度の東京都予算案は2月7日決定した。美濃部都政初の予算編成のため、内外から注目されていたが、社会福祉関係では、心身障害者（児）：保育対策が交通安全、都市公害・物価対策とならんで、五つの重点対策のなかにとりいれられた。

ここで、都の保育予算案をみてみよう。

（東京都社会福祉協議会広報によると内容は概略別表の通りである。） ※次頁参照

保育事業全体は、昨年に対し、67%増の10億円。いちじるしい増え方であろう。各項目をスケッチすると 一。

保育所の整備及び整備費補助は、新設78カ所、定員増をふくむ増改築22カ所。（都立、市町村立、民間、公営住宅併設、特別区立を合わせて）

未認可保育所対策は10～20年間で返済の整備費貸付（無利子）、児童1人月額千円の運営費、1施設10万円以内の施設改善費助成である。

保育時間の充実とは長時間保育対策で、公私の別なく1施設当り保母1人の増員。

乳児保育の充実は、0才児保育の要求にこたえたもので、認可施設へ0才児保育室をモデル的に併設しようというもの。中味は、2才未満児の受持ち人数を6人から5人へ、嘱託医手当月六千円、保健婦の配置など。

この内容について、保育所関係者は金額の点で不満がないわけではなかったが、予算編成の方向づけとしては画期的だとして、歓迎

S 43年度東京都保育予算のあらまし

| 項 目<br>保 育 事 業 | 43年度<br>1,008百万円 | 42年度<br>603百万円 | 増△減(%)<br>405百万円 (67) |
|----------------|------------------|----------------|-----------------------|
| ①保育所の運営及び補助    | 421              | 337            | 84 (25)               |
| ②保育所の整備費補助     | 347              | 258            | 89 (34.5)             |
| ③無認可保育所対策      | 91               | 8              | 83 (90)               |
| ④保育時間の充実       | 99               | 0              | 99 新規                 |
| ⑤乳児保育の充実       | 50               | 0              | 50 新規                 |

していた。そのムードのなかへ、無認可保育所への助成は違憲のうたがいがあるという自民党都議団の指摘によって、予算をめぐる局面は、大きく転換した。(朝日新聞 2月19日付朝刊)。

さらに、翌20日付の朝日新聞「京浜版」は、横浜市議会自民党議員岡も、市の新年度予算案にもり込まれた無認可保育所への助成(私立認可保育所への助成とあわせて四百万円)を問題にするかどうか「検討中」であることを報じた。

NHK総合テレビは、2月20日午後10時50分より「時の動き」で「もめる無認可保育所の助成」を放送。関係者及び研究者などの意見を集めていたが、そのなかで、美濃部知事は「最高裁へもちこんでもいい」決意を明らかにしていた。

ところで、東京都ではすでに39年より保育料の据え置き、補修費加算(減価償却的性格のもの)児童1人月額200円、保育単価の10人きざみ方式による措置費の実質的充実、庁費の算定基準は国のそれより職員1人分増などを実施している。しかも、それらは、100%都負担で、市町村及び特別区の負担を軽くしている。(東京都には他の府県と異なる特殊事情もあるけれど)

したがって、新年度のような予算措置を講ずると財政負担がさらに重くなることは明らかだ。今後の問題点の一つである。

それとは別の問題がある。0才児保育の要

求の動きが活発になったのに対して、特別区の厚生部長及び公立保育園長の代表は、42年末、現行制度での0才児保育には多くの危険をとまなう。児童福祉法を改正し、昼間乳児院的施設のなかで保育すべきではないか、という報告書を発表した。これは革新知事へのひとつのプレッシャーという見解もあるが、ともかく、複雑な背景のなかで無認可保育所をめぐる問題をどう解決していくかが、美濃部知事の課題であろう。

全国的にも保育関係者間で、違憲についてあるいは今後の論議の発展の見通しなどについて、種々意見をたたかわせはじめている。婦人労働分野では、婦人対策の一環とした方が筋が通りやすいのではないか、という声もではじめている。

ともあれ、無認可保育所を中心に、保育問題は、国民の前に、今年の課題として大きくクローズアップされてきたといえよう。

(1968.2.25現在)

泉 順・記



# 退職金制度経過報告

## 県福利協会共済制度に

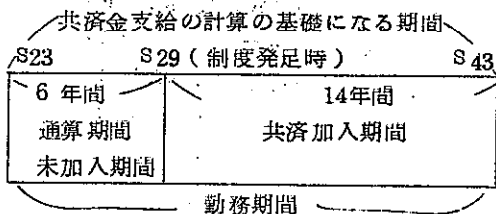
### 制度発足前の勤務期間を通算

神奈川県社会福祉協議会事務局長  
丸山元晴

民間従事者の退職金改善（問題点、長期勤続者の退職金一老後保障）については、かねてより県社協問題別委員会において検討されておりましたが、問題の一応の打開策がうち出され、これを受けて県福利協会において、43年度より実施することを決定致しております。

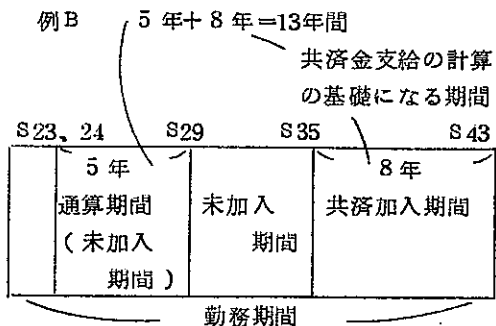
その打開策とは現県福利協会共済制度加入者の中、「本制度発足前（S29年4月）より、引き続き民間社会福祉事業に勤務していた者については、その勤務期間をS23年4月を限度として共済加入期間に通算し退職共済金の給付を行なう」というものです。

例A



Aは例えば、S43.4に退職したとすると、従来は14年間（加入期間）の計算で共済金の給付が行なわれたが、この措置によって20年間加入と同じに共済金が支払われることになる。

例B



Bは例えば、S43.4に退職したものとすると従来は8年の計算で共済金の給付が行なわれたが、この措置により13年間加入と同じに共済金が支払われる。

この結果この制度の適用を受ける人は、平均約12万～13万円程度共済金が増える見込みです。またこの財源は、現在県費補助により共済金に加算が行なわれておりますが、この加算金の積立利率によって行なわれます。

退職金制度改善に対する従事者の期待の大きさに対して、この結果は十分とは云えないと思います。しかしこれを契機に国の退職金制度も同じように改善されるように、また基本的には給与の改善が図られるように、そして老後の憂いなく福祉の仕事に専念出来るように、共に努力致すべきと思っております。

## 県社協だより

### 定期昇給制度の研究について

民間従事者の処遇改善の根本策として、従来より定期昇給制度の実現が切望されておりますが、先般来より県社協施設部会において、研究委員会（委員長梅崎英雄氏保育関係より田頭晴弥氏）を設けこの研究に当たっております。その現在迄の状況を簡単に報告します

(1)公務員に準じた各施設共通の給与体系を作る (2)給与体系は大体「一般職（事務職員等）専門職A（保育等）、専門職B（運転手等）」と職種を三つ位に分けて設ける。ということころまですすんできております。

このような研究がすすめられていることにご注目頂き、またなにかとご協力頂きたく報告します。

（県社協 近藤）

## 「体育」の実態調査をテーマに

### 神奈川県保育研究協議会

#### 参加報告

県下保育所の保母が日常の業務に追われながら常時地域に於て研究会を設けその成果を自分達のものにするだけでなく保育事業の向上を目指し、相互に研究討議を行ない、子どもの福祉を図るため、例年の如く去る2月24日(土)午前10時～午後3時30分まで神奈川県社会福祉協議会の主催にて当館講堂に於て保育従事者200名出席のもと下記日程により研究協議会が行なわれました。

#### 1. 主催者丸山局長の挨拶

#### 2. 講師の紹介

大場義明先生(東京大学教授・横浜女子短大講師)

西条億重先生(東京都厚生館保育歯長・全社協保育協議会調査研究部長)

#### 3. 柳瀬県保母会長挨拶

#### 4. 保母賞受賞者にお祝い品贈呈

和泉照子先生(岩愛児園)

#### 5. 研究討議(研究課題並びに発表者)

##### (1) 保育園児に対する体育指導の1考察

(横須賀地区保母会・山田やす子先生)

##### (2) 幼児の体力調査を実施して

(相模原地区保母会 白井弥生先生)

##### (3) 幼児の安全能力育成と基礎体力調査

(茅ヶ崎地区保母会 林 百枝先生)

##### (4) 共稼ぎ問題児、保育所

(足柄下郡地区保母会 鈴木豊子先生)

以上のうち(1)(2)(3)の発表は園児の体力に関連し、実態調査にもとづいた綿密な内容であり、参会者一同感銘を深くいたしました。

(4)の発表については、地域の特異性を詳細にとらえ、日々の保育経営に充分生かされ、調査の内容も当を得たものであった。

これにて午前中の日程を終り、午後1時か

ら再開、神奈川県保母会内にある幼児の研究部会として「幼児の体力調査について」と題してリーダーの伊徒ミサ子先生より昨秋田賞をいただいた内容についてご発表がありました。乳児の部会については昨年九月より発足、乳児のデイリープログラム排泄衣服の着脱等につき0才児より1才児、2才児と討議研究を重ねまとめたご報告をしていただく予定が発表者事故のためおしくもとりやめになりました。

各発表者に対する質疑応答が約50分熱心に行なわれ活発な話し合いが、なされました。

最後に講評、大場先生より研究は誰にでもわかり易いことが本体である調査のための調査にならぬこと、グラフや統計のみにはしらぬこと本質的な安全教育の方法等についてよいお話を伺いました。

次に西条先生より体力調査が全国にさがけて行なわれたことは大きな進歩であるとおほめのお言葉があり(4)のテーマについて箱根という地域の特色のにじみでた保育所の一つ一つの問題についてきめのこまかい御指導があり、ポイントをつかんだ調査の内容であった等保育所経営の観点より眺められた実感を述べられました。

勝山業務部長より今後の皆さんの努力を益々つみ重ねてくださいとの閉会の挨拶によって散会いたしました。

長時間に亘り熱心に討議を進め、与えられた僅かな時間でも有効にとの保母さん方がやいた顔々にひたすら満足感を覚えたのですが、残念ながら園長先生は泉先生、大地先生の僅か2人だけのご出席で心淋しい気がいたしました。やはり保母の指導者としても大いにこのような雰囲気を受けて欲しかったと思います。

尚昼食時間を利用して神奈川県柳友会の発表会式も小田原愛児園の望月光先生を会長におしてめでたく誕生今後のご活躍を期待し、保母会の益々充実したことを付記いたします。

(県保母会 長谷川愛子・記)



## 幼児の体力調査について

神奈川県保育内容委員

伊 従 ミサ子

近年児童の体位が年々向上しつつある反面体力が低下しているといわれる時、当研究会では県下の保育園の幼児の体位体力がどのような状態か実態をつかみ体力増進、アンバランスの改善方策を立て園庭、遊具と体力との関係、これらにより最低基準（昭和23年）に引かれている遊具等のひき上げをねがい児童にふさわしい体力測定の方法を作り運動用具園庭の整備等統一すべきではないかとの声、県下の保育園の協力を得て体力調査をいたしました。その結果、農村、大中部市の差はあまりみられず体位が日本人の形より脱し西洋形になりつつあることの裏付、発育が3才児と、5・6才児との開きがない事、幼児の体力測定方法が全国実にまちまちであり又基準にするものがないこと。

現代の環境の中では広い庭で遊ぶこともできない子供必ずしも正しい成長がみられないのではなからうかと思う。

社会性の発達に結びついた体力作りに少しでも役立つものでありたいと同じに子供たちが楽しんで参加できる測定方法を作り保育の向上をめざしていきたいものです。尚この研究に対し秋田賞をいただきましたこと私たちは秋田先生の意をついでこれからの世代を背負って行く子供たちの為に保育に専念するものです。

### ◎ 神奈川県保育会 1年の歩み ◎

保育所の運営上の問題、保育従事者の問題、保育内容の問題、家庭負担の問題、安全保育の問題等の山積する保育所問題の解決を願う

今年度において大要次のように委員会議、又は各地区施設長との合同研究会等を開くとともに関係方面に陳情又は各種連絡会、大会等に代表者が参会し協議に加わり保育所の前進にいささかなりとも活動した。

#### (1) 第1回神奈川県保育大会と県保育会総会開催

- 5月13日 県立平塚農業会館にて
- 参会者 保育施設関係者、保育行政関係者 保育所の保護者等 約300名
- 保母の職務内容や勤務時間のあり方に関する問題
- 最低基準に関する問題
- 3才児と未満児の保育に関する問題
- 保育所における健康安全管理に関する問題
- 人口過密地帯と過疎地帯の保育問題
- 民間保育所の施設整備と諸経費に関する問題
- 公立保育所に必要な経費に関する問題

以上7つの研究テーマを二つの分科会にて研究討議した。この大会後処理委員会を5月22日に開催し新潟における関東ブロック保育事業研究大会に提案概要をまとめ代表者によって意見発表することにした。

#### (2) 叙勲者 厚生大臣表彰 県保母賞等の被表彰者11名に記念品贈呈（5月13日の県保育大会にて）

#### (3) 委員会議の開催及び地区施設長との研究会議開催

- 4月5日県社協にて 県保育大会開催について準備と新潟における第8回関プロ大会について其他
- 5月4日県社協にて 県大会の開催具体案について 日本保育協会支部結成について・其他
- 5月22日県社協にて 県大会処理のための委員会議
- 6月18日県社協にて

- 新潟の関プロ大会について  
愛知県の全国保育協議会について  
県福祉大会提案事項について 其他
- 7月20日県社協にて  
第16回県社会福祉大会提案事項の具体案について  
研究部会と地区別会議開催について  
(月別と地区)  
8月(小田原、上、下) 9月(返子、横須賀) 10月(県央) 11月(平塚・中郡) 12月(川崎) 1月(社協) 2月(相模原) 3月(藤沢・茅ヶ崎)  
(研究部会)  
1 完全給食問題  
2 法人化推進問題  
3 交通安全問題
  - 9月7日上郡道了山にて  
○ 第11回全国保育協議会出席報告  
○ 県社会福祉大会と要望事項提案について  
○ 保育かながわ誌について 其他  
とくに完全給食について研究討議した。
  - 10月4日返子市立図書館にて  
○ 県福祉大会報告と予算について  
○ 園児の交通安全対策について研究
  - 11月1日県央半原にて  
○ 県に要望予算について  
○ 交通安全対策について研究  
○ 県保育内容研究委員会の児童票について 其他
  - 11月29日平塚市役所にて  
○ 関プロ連絡会議の報告  
○ 全国共通研究テーマについて  
○ 児童課長と会長予算要求の懇談の報告
  - 12月19日川崎市産業文化会館にて  
○ 川崎市の保育行政について  
○ 民間保育所に市町村助成の現況について  
○ 乳児保育の諸問題について研究
  - 43年1月30日県社協にて  
○ 43年度国及び県の保育関係予算の概要について  
○ 保育かながわ誌第5号発行と原稿担当者について 其他
- 2月27日相模原市民会館にて  
○ 相模原市の保育行政について  
○ 関プロ連絡会議(静岡)の報告  
○ 長野における関プロ保育研究大会開催要項について  
○ 児童福祉法制度20周年記念県保育大会と保育従事者15年以上勤続者表彰について  
○ 県保育会任期満了につき改選について  
尚次回は3月中旬頃新築落成の横須賀衣笠愛児園にて施設見学をかね、委員会を開催、特に県保育会の新年度事業計画並びに県保育大会及び15年以上勤続者表彰要領等について協議の予定。
  - (4) 園長主任保母研修会  
日本保育協会後援のもとに県社協講堂にて2月10日開催。参加者約200名余講師厚生省保育専門指導官高城先生の保育指針と保育要領についての指導をうけた。
  - (5) 日本保育協会県支部結成  
任意加入による入会者を支部会員として5月13日結成する。
  - (6) 第16回県社会福祉大会に提案した次の要望項目を中心に県に対し陳情した。
    - ① 嚙託医手当 国の予算年12,000円に対し60,000円に助成を
    - ② 3才以上児の完全給食実施のため助成を
    - ③ 保育所保母に対し給食指導費の助成
    - ④ 調理担当者の増員助成 幼児80名単位に1人 未満児20名に1人
    - ⑤ 民間保育所振興費助成
    - ⑥ 庁費の加算
    - ⑦ 地域区分の是正助成
    - ⑧ 慰労金(研究費)有給専従の施設長に支給
    - ⑨ 児童を交通から守る運動推進助成 其他
  - (7) 機関誌 保育かながわ の発刊第3号 第4号 第5号(3月発行)
  - (8) 全国保育研究協議大会(愛知県) 関プロ保育事業研究大会(新潟) 保育関係国家予算要求全国大会(東京)

其他に代表者参加 [庶務委員安部]

## 昭和42年度県保母会のあゆみ

県保母会の42年度のあゆみを申し上げます。

- \* 総会 県社協において5月20日開催され、41年度の決算、42年度の予算計画その他を検討しました。
- \* 委員会 6月8日には、地区委員と保育内容、乳児保育委員との合同委員会を開き、今年1年間の研究テーマ、どの様に研究を進めていったらよいか等の話し合いをし、保育内容研究会では、木下先生を助言者としてお願いし、乳児保育研究会の助言者は、泉先生をお願いして研究することになりました。
- \* 関東ブロック保育事業大会 7月8日～10日の3日間、新潟市に於て開催され、保育制度、保母の職務内容、最低基準に関する問題等々多くの問題を検討しました。
- \* 体育祭 11月3日には、藤沢市秩父宮体育館で盛大に行なわれました。横浜市の保母さん達と、今年はじめ、東京都の保母さんが多数参加し、たのしい1日を過ごしました。
- \* 第1回全社協保母研修会 11月20日～23日の3日間、東京女子会館で開かれ、身分保障、保育内容、保母の職務内容等の問題について討議し、意見の交換も活発に行なわれ、有意義な研修会でした。
- \* 12月には保母会長以下6名で、民生部長、児童課長、係長さんと膝をまじえて保母賞、体育祭について色々と意見を申し上げます。
- \* 予算獲得全国運動 1月8日には国会その他に予算獲得のため、積極的に参加しました。

\* 中央研修会 1月9日に県社協に於て研修会を開催し、松岡義和先生による劇あそびについて、実際の指導を受けました。

\* 研修会 1月28日、29日の両日、熱海に於て、地区委員、保育内容、乳児保育研究委員、元委員との合同研修会をもち、今後の保母の活動について話し合いました。

\* 地区別研修会 12地区別によりそれぞれのテーマにより研修会を開いております。尚この他に毎月委員会を開催し、当面する問題について協議し、処理いたしております。  
(43年2月記)

わかたけ保育園 尾島正子

## 新設遠藤保育園について

### 七尾 善之助

遠藤地区は、藤沢市の西北部に位置し、世帯数は645、人口3,050人位で、就学前児童の3才以上児が、120～130人位と推定され兼業農家が多く主婦の労働依存度の高い地区であり、地元民も保育園の設置を強く望み再三市にも要望した結果遠藤保育園が出来たのである。

ところが人口も児童数も少ないこの地区に急に幼稚園が出来、昨年末大々的に募集を始めた。地元の人には保育園と幼稚園の区別がつかず、保育園はなぜ募集しないのか、何時始めるのか等の問合せが多く、それに対して入所受付は市の福祉事務所で、来年(43年)2～3月頃になるでしょう。保育園は、保育に欠ける児童を入れる所です。等と説明するものだから聞く方も良くわからないという状態で、そんな面倒なら幼稚園へ行こうという人も大分いたという事で、実際のところ定員に見合う職員を確保した私の方ではいささか頭の痛い事である。

さて出来た遠藤保育園であるが、土地は借

地で1983、3 m<sup>2</sup>あり、地主の好意で権利金なしの3、3 m<sup>2</sup> 8円で借りられたのである。

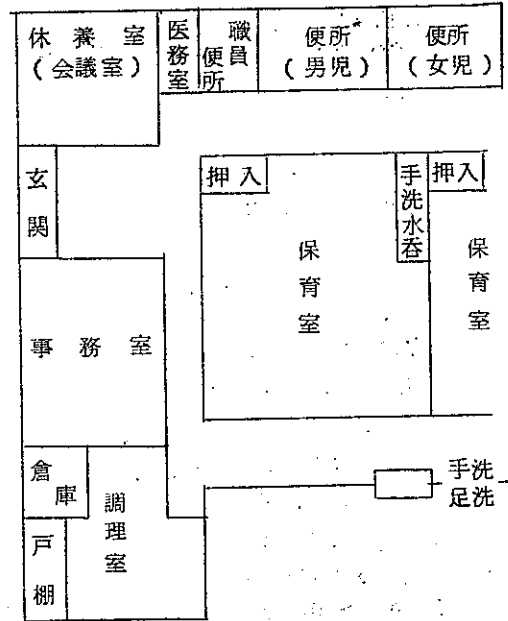
園舎は建坪396、63 m<sup>2</sup>で鉄筋コンクリート平家建て、東西に長く建てた。定員90名（内乳児20名）である。資金面に於ては、県費補助金の大幅の増額と国、市、共募の補助金により借入金及自己負担金が少なくて済んだ事は有難かった。只この地区は、水道もない所だったので、水道を引く負担金とか、敷地の周囲245 mを最初の設計を変更して万年堀で出た分が予算オーバーというところである。

保育園の内部については、特別配慮したという点はないが、各部屋ごとに手洗い、水呑み場を設け、午睡用蒲団を入れる押入れも各部屋に作ってみた。又小型換気扇、天井から扇風機を各部屋につけた。保育室の一つを30 cm位高くしてあるが、ステージ兼午睡室に使用しようと思っている。網戸も全部の部屋につけてもらうようにしてある。個々の区切った部屋が欲しかったが、ホールを作れなかった為アコーディオンドアで区切って部屋にしたり、ホールにしたりと云う少し寂しい方法もとってみた。給食室は一番日当りの良い両側にとり、職員室、休養室（会議室）も幾分間取りを広く設計してもらった。乳児室は東南に面して一日中日が入るよう考慮した。又部屋でもテラスでもネットクライミングが出来るよう金具を取りつけた。尚色彩で部屋を分けようと思い、あれこれやってみたが盲く行ったのかどうか余り自信がない。

しかしこうして出来上がった、園舎を見るにつけ此処迄来る為には、多くの人々の協力と援助によって出来たのであり、この園舎を有効に活用し、地区の子供の幸福と地域社会福祉のセンターとしての役割りを果して行かねばならない。前記した通り最初は、当分苦しい経営になりそうだが、なんとかがんばって保育園の使命を果して行きたいと思うものである。

### 遠藤保育園平面図

(43、1、30完成)

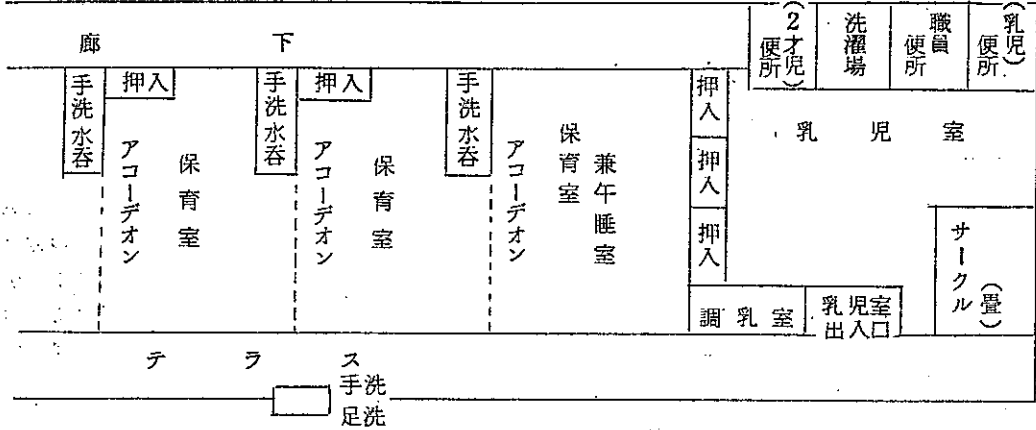


### S43年度県保育会委員一覧表

(1968、3、18現在)

|       |         |         |
|-------|---------|---------|
| 横須賀地区 | 衣笠愛 児園  | 加茂坂 英 一 |
| "     | 小浜子 愛育園 | 広 田 正 明 |
| 川 崎 " | 東門前 保育園 | 藤 田 保 夫 |
| 川 崎 " | 古市場 保育園 | 今 井 幸 子 |
| 藤 沢 " | わかたけ 保  | 七 尾 善之助 |
| 平 塚 " | あさひ 保育園 | 河 野 シゲ  |
| 茅ヶ崎 " | 変更見込    |         |
| 小田原 " | 小田原 愛   | 望 月 正 道 |
| 小田原 " | みどりの家愛  | 安 部 竜 蔵 |
| 下 郡 " | 貴船 愛    | 平 井 大 海 |
| 上 郡 " | 酒田 保    | 露 木 広 吉 |
| 中 郡 " | 伊勢原愛    | 渡 辺 海 存 |
| 相模原 " | 高見 保    | 小 川 静   |
| 県 央 " | 依知 保    | 鈴 木 花 枝 |
| 会 報 " | 善隣園     | 泉 順 子   |
| 保 母 会 | 座間 保    | 柳 瀬 劫 子 |
| 会 計   | 双葉 保    | 小 池 妙 子 |

(注) 小川静氏は3月中に交替の見込み。  
尚この他に委員の交替がある模様。



編集雑記帖

▽……1月の県保育会委員会は、県社協でひらかれた。その日の朝刊に、東京都予算が発表されていたので、望月委員長のくち火切りで、本県の保育行政も、もっと充実したものにしてもらうよう、一層の働きかけをしようという空気がただよった。現状のまま「福祉県」というレッテルによりかかりすぎていては、いつのまにか、追い越されてしまいかねないからだ。

▽……この日、たまたま出席していた横兵の宮崎晋氏は母子寮畑の人でもあるので、母子寮の充実強化を力説。斜陽化しているといわれているだけに、児童福祉法20周年を期して、大いにテコ入れをしていきたい様子だった。

▽……ところで、43年度県の保育予算について

田中課長は「業界の要望をふまえてキメコマカナ配慮をした」と説明している。そのためか、金額的にみて、下カンと大きいものは見当らない。施設の新設をおさえたのと心身障害児の在宅対策や里親・里子センター関係に力点をおいたためだろう。今年は無りだが、完全給食への方向づけは考えているようだ。それにとりなう調理人の増員、乙地の早期解消、嘱託医手当の増額、保育所振興費の新設などの重要項目をひとつでも芽をふかせるよう来年にむけて、国会として頑張る必要がある。

▽……今年度から43年年度へかけて県が力を入れているものに「法外保育所対策」がある。県内58施設を認可させる方向に指導しようというもの。43年2月に職員研修会を開いたが、交通費、昼食つきという児童課のサービスぶりに「こういう研修会ははじめてでビックリ」という保育母のアンケートがよせられていた。

▽……この1年間、県保育会乳児保育研究会

に出席させて頂いて感じたのは、経験者がきわめて、すくないことだ。長い人で2年、大部分が1年くらいなのだ。それだけに、どう保育していったらよいか に切実に悩んでいた。だから、忙しい時間をさいて、熱心に勉強しに集ってくる。県でも乳児保育研修には力を入れているが、気軽な形での研究会をもっともっと計画していくこと、そして、現場の、素朴ではあっても切実な問題を考えあっていけるような配慮をのぞみたいと思った。

▽……その点に関してこういうアイデアは生かせないか。乳児保育技術を高めるためのスライドづくりがある。子どもと保育のふれあい、子どものあそび、あそびせ方などを、シャシにとり、また、図解を入れて、スライドをつくるのである。私も、ほんのチョット、シャシをうつし、展示物をつくったが、大そう勉強になった。自分でも気のつかない子どものすがたをつかめたからである。

▽……とにかく、いろいろの形の研修会にしる、話しあいにしる、それが、お母さんたちにもわかるぐらいに、十分こなされ、そして、まとめられて、みんなの眼にふれるように、経験を整理していくことが、保育内容を高めていくと思うのである。こういうことに、県としても予算化の努力をしてほしいもの。

▽……ところで、全社協保育協議会では、保育制度研究会(委員長 宮下俊彦氏)を組織しているが、今年に入って、保育所の歴史からみた今日の保育問題一回顧と展望一をテーマにし、児童福祉法、最低基準、徴収基準など、いわば保育所制度のスタートする頃に焦点をあわせて研究している。吉見静江、谷川貞夫、副島ハマの諸先輩から、当時のウラ話をきいていると楽しいし、また有益だ。そんなこともあったのか、と思う。

▽……そういう流れに立ってみると、今日は今日なり昨日の上になって前進していることがわかる。保育内容にしてもそうにちがいない。それだけに、今の時点で、今の仕事の中味を、前進のためにコツコツとまとめてお

くこと、とても大切なことではないか。それはまた、自分自身の整理にもなることであろう。

▽……川崎市では、夜間保育の要求がつよい。とくに、看護婦のように夜勤のある婦人たちには切実であるようだ。川崎市当局も、そして職員組合でも、これに取組んでいく気構えのようだが、保育者たちは、これ以上、保育時間を延長されたらどうなるのか。ママさん保育はとてつづけられない。保育者の労働条件も問題だが、子ども、わけても0才児が夜10時頃、ねむっている所をおこされて帰宅するのはいいことなのだろうか。さまざまな論議がわきあっている。厚生省でも、長時間保育問題について、真剣に取組みだしているとか。

ともあれ、県内の保育所の保育時間について、もう少し統一のあるものにしていくことは無理だろうか。これは画一的なものをきめるのではなく、考え方の上で、意見を一致させていくということなのだが…。

▽……本号には、東京都の私立保育所に対する補助、助成一らん表、43年度保育単価、徴収基準表、県保育予算、県保育会の活動方針と事業計画、児童医療福祉財団の心臓病検診車、県社協の機構改革の問題点など、ふれるべきことがいろいろあったが、紙数の関係で省略した。

▽……本来なら、3月中に刊行すべきであったが、印刷所が満員なのと、私が、原稿をまとめられなかったのとで、すっかりおくれってしまったことは申し訳ない。

▽……県では、保育会に対し、10万円の補助増額をのぞらしてくれた。「だから……」というわけではないが、この会報も、アンテナをひろげ、ピリリとした内容にし、市町村をふくめた行政と施設の歯車のかみあいに、少しでも役に立ちたいと思うが、思うだけで形にならないのが心苦しい。

▽……しかし、このように変動の激しい、複雑な社会を背景にした保育問題をよみものに

まとめ、かつ、自分の施設の向上を考えていこうとするには、超人的エネルギーが要求される。かつてある先輩が「こんなにまでしなくてはならない自分がいじらしく、あわれになる」と語っていたが、つねに高まることのみを考え実践してきているその人にしてからがしかりである。

▽……とんだグチになった。さいきん、ペンのスピードが、とみにおとろえてきたせいか、グチルことが多くなった。自分の姿勢が、しらぬまに、くずれてはいないか。そんな不安もないではない。

(泉 順・記)

保育かながわ 第5号

|     |                                        |
|-----|----------------------------------------|
| 印刷日 | 昭和43年3月20日                             |
| 発行日 | 昭和43年3月25日                             |
| 題字  | 内山岩太郎・書                                |
| 発行人 | 横浜市神奈川区桐畑14<br>神奈川県社会福祉協議会内<br>神奈川県保育会 |
|     | 委員長 望月正道                               |
| 編集人 | 神奈川県保育会編集委員会<br>(代表) 泉 順               |